



CHIBA  
UNIVERSITY



INNOVATION  
MANAGEMENT  
ORGANIZATION

**Ad Altiora Semper  
Always Aim Higher**



**IMO**

Academic  
Research & Innovation  
Management Office

**2023**

学術研究・イノベーション推進機構

CHIBA UNIVERSITY



学術研究・イノベーション推進機構（IMO）機構長／  
理事（研究担当）

**藤江 幸一**

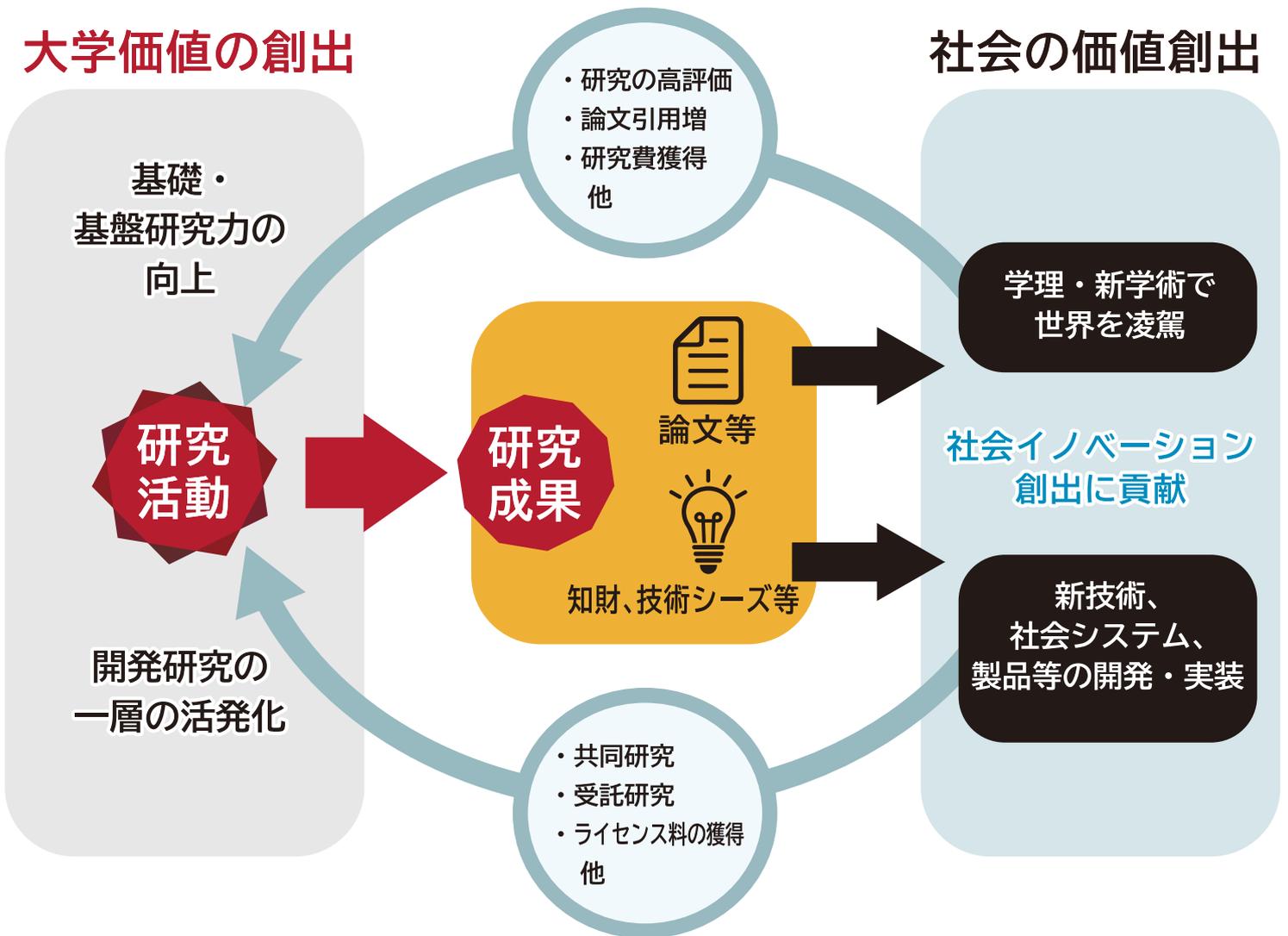
**Koichi FUJIE**

千葉大学は、研究支援・産学連携機能の強化とイノベーション創出を加速する目的で学術研究・イノベーション推進機構（Academic Research & Innovation Management Organization: IMO）を設置しました。

IMOでは研究推進部とリサーチ・アドミニストレーター（URA）が連携して最先端研究の推進を支援するとともに、企業様等とのコーディネート活動の一層の強化によって、社会価値創出のための様々な取り組みを実施する体制の整備と強化を実現して参ります。

皆様からのご相談については、各分野の専門知識を有するURAと大学スタッフが連携してご対応させていただきます。

# 社会価値創出に向けて



## 研究活動に基づく**好循環**の実現

IMOでは、大学における共通価値の創造（Creating Shared Value: CSV）を推進しています。高い質の基盤的研究成果がもたらす学理・新学術による社会貢献は、大学に対する高い評価やさらなる研究費の獲得増に繋がります。研究成果がもたらす知的財産や技術シーズは、製品化や技術・システムの開発・実用化を通して社会価値創造に繋がります。

ライセンス料収入、共同研究・受託研究の増加や、基盤的研究および開発に欠かせない情報・知見等の獲得は、大学の価値向上への大きな推進力となります。

研究を通して社会の価値と大学自身の価値の向上を併せて実現するためには、社会の選好性（Social Preference）の的確な認知・把握（Perception）も欠かせません。

「つねに、より高きものをめざして」の理念のもと、10学部を擁する千葉大学では、積極的な分野横断（Transdisciplinary）による新領域開拓を推進しながら社会価値創出に貢献してまいります。



# IMO について

## IMO の目的と機能

大学は社会の一員として社会価値創出への寄与が強く求められています。世界規模で社会が激しく変化する中で、社会価値創出を持続的に実現していくためには、大学が国際頭脳循環の中核として最先端の研究を弛まず展開し、その成果に基づいた科学技術の進展、そしてその活用によるイノベーション創出が不可欠です。多様な側面における我が国の国際競争力強化にも貢献できます。

本学ではこのような社会的要請に迅速に応えるために、研究支援・産学連携機能の強化とイノベーション創出を加速する目的で学術研究・イノベーション推進機構（Academic Research & Innovation Management Organization: IMO）を設置しました。

IMOでは研究推進部とUniversity Research Administrator（URA）が連携して最先端研究の推進を支援するとともに、企業様とのコーディネート活動の一層の強化によって、社会価値創出のための様々な取り組みを実施する体制の整備と強化を実現して参ります。

## メンバー Member



副学長（研究担当） /  
医学研究院教授

**齋藤 哲一郎**

Tetsuichiro SAITO



副学長（研究担当） /  
理学研究院教授

**柳澤 章**

Akira YANAGISAWA



副学長（研究・産学連携担当） /  
工学研究院教授

**武居 昌宏**

Masahiro TAKEI



副学長（研究・地域連携担当） /  
園芸学研究院長

**松岡 延浩**

Nobuhiro MASTUOKA

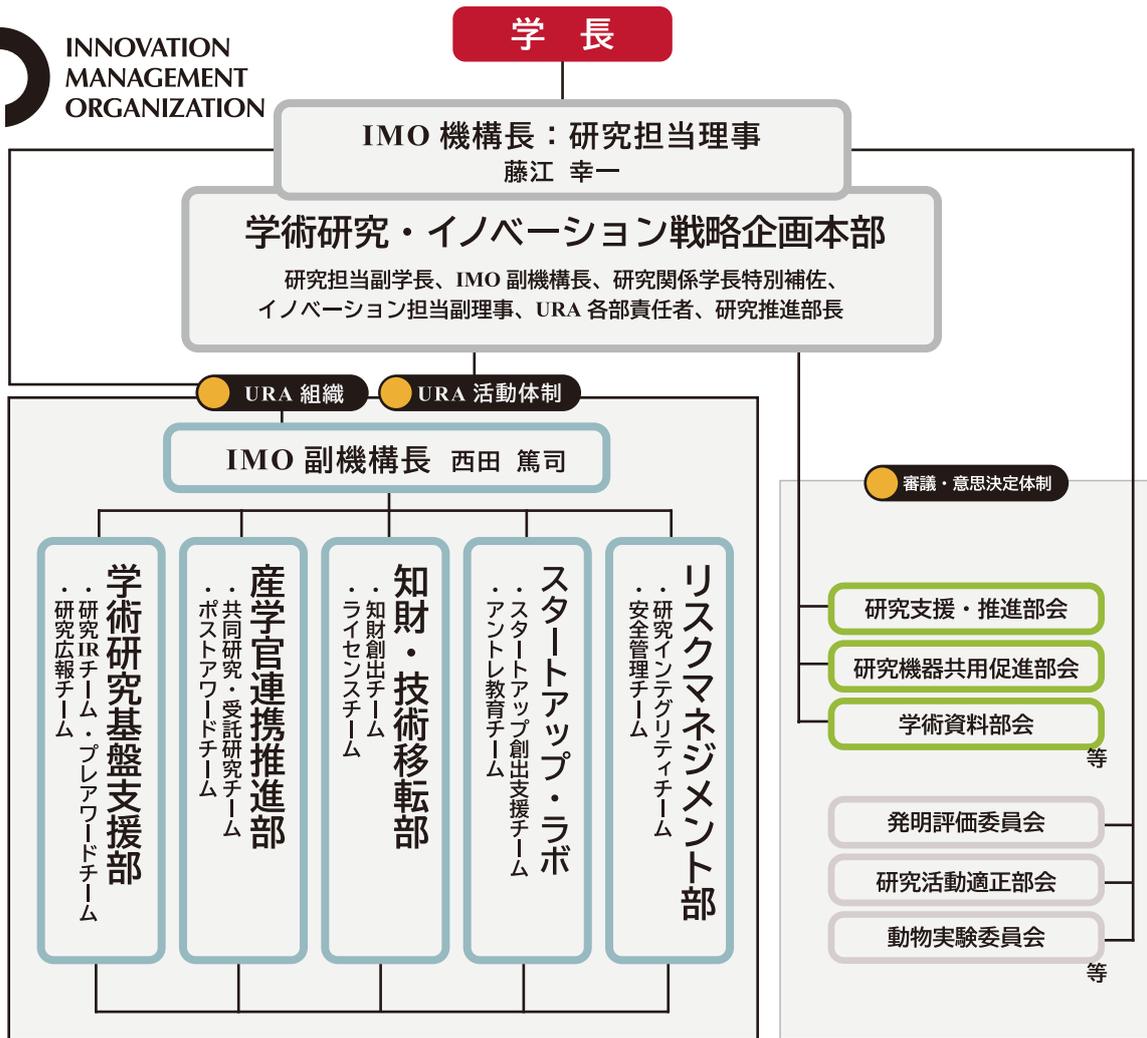
IMO は学長のリーダーシップのもと、  
研究力強化と研究成果の  
社会実装を通じてイノベーション創出に努めます。

副機構長 / 特任教授

**西田 篤司**

Atsushi NISHIDA





【事務担当】研究推進部：研究推進課、産学連携課、研究適正化・安全推進室



# スペース利用

千葉大学は IMO のイノベーション創出のために  
大学の様々な設備・施設・スペースを提供しています。

コワーキング  
スペース

IMO I棟  
2階

提携企業様の共用スペース



イベント  
ルーム

IMO I棟  
1階

多目的な用途で利用できるイベントルーム



WEB会議ルーム



ミーティングルーム



オープン  
イノベーション  
スペース

IMO II棟  
1階

中小・ベンチャー企業、起業家学生などの  
交流を目的に、一般の方も利用できます

## 他にもいろいろ 千葉大学の利用可能スペース・共用機器

- ◆千葉大学知識集約型共同研究拠点 (KCRC)
- ◆千葉大学サイエンスパークセンター (CSPC)
- ◆千葉大学共用機器センター
- ◆千葉ヨウ素資源イノベーションセンター (CIRIC)



スペース利用



核磁気共鳴装置 (NMR) ※CIRIC



顕微赤外分光光度計 (IR) ※CIRIC



透過型電子顕微鏡 (TEM)



X線回折装置 (XRD)



質量分析装置 (MS)

# 学術研究支援の一例

## 学術研究支援

学際研究領域を開拓する世界水準の学術研究や、  
新たな価値を創造するイノベティブな研究を推進するため、以下の支援を提供しています。

若手研究者・  
大学院生支援

若手を中心とする研究者、大学院生、学生の研究力向上のため、  
大学独自の取組を企画・運営しています。

国際高等研究基幹 (IAAR)  
JST 創発研究者支援  
JSPS DC1・DC2・PD 獲得促進支援など



国際高等研究基幹



創発的研究者支援事業

政府系資金  
獲得支援

公募情報提供、事前相談、申請書作成支援、模擬ヒアリング  
開催などを通じ、研究者の外部資金獲得支援をしています。



科研費申請ガイド 2022



ヒアリング資料作成ガイドブック

## 研究広報

千葉大学の研究成果を、外部メディアや I MO 他のウェブサイト等を通じて  
幅広く発信していくための支援を行っています。

### 論文プレスリリースの審議

学術誌に投稿された本学研究者の論文に関するプレスリリース作成を支援しています。

千葉大学研究メディア  
CHIBADAI NEXT (チバダイ・ネクスト) の  
企画・運営を企画部渉外企画課広報室と  
協働で行っています。



CHIBADAI NEXT

CHIBADAI NEXT の企画・運営

## 研究 I R

千葉大学の研究活動に関する情報を収集・分析し、研究力強化のための戦略を  
企画・提案いたします。

研究成果・競争的外部資金等の各種調査  
中期目標に係る評価指標の検討・算出  
BI ツールによる研究力の見える化

# 産学官連携支援の一例

## 技術相談、学術指導

企業様が直面する技術的な問題に対し、その解決に適した教育・研究者を紹介し、個別の相談にお応えする制度です。

ご相談内容

新事業の立上げ、新製品・新技術開発や生産技術・工程の改善、製品の品質や機能・性能の科学的評価等、様々な技術開発のご相談に応じます。まずはお気軽にご相談ください。

期 間

ご相談内容や対応する研究者のスケジュールによります。

## 共同研究

企業様や自治体様が持っている技術力等と本学の教員が持つ研究能力を集結し、共通の課題について共同で研究を実施することにより、優れた研究成果を挙げる制度です。

主な経費

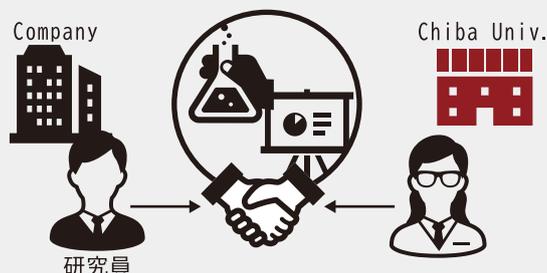
直接経費  
間接経費  
外部機関共同研究費

期 間

1年から5年程度で期間を設定できます。

知的財産権の取り扱い

共同研究規約書に基づき定められますが、原則として知的財産権は発明者が所属する機関または発明者に帰属します。



## 委託研究

企業様等からの委託を受けて本学の教員・研究者が研究する制度です。

主な経費

直接経費  
間接経費

期 間

1年から5年程度

知的財産権の取り扱い

発明を創造した場合の知的財産権は、本学または本学の教員に帰属します。



# 共同研究講座・共同研究部門

企業様等からの資金・人材提供により、大学内で共同研究をする組織を設ける制度です。

主な経費  
直接経費  
間接経費  
外部機関共同研究費

期間  
原則として2年以上5年以下としますが、更新も可能です。

知的財産権の取り扱い  
原則として知的財産権は発明者が所属する機関または発明者に帰属します。  
本学と外部機関に所属する研究者が共同で発明等を創造した場合には、本学と外部機関が協議して知的財産権の持分を定め、共有の知的財産権として出願等を行います。



## 知的財産・知財ライセンス

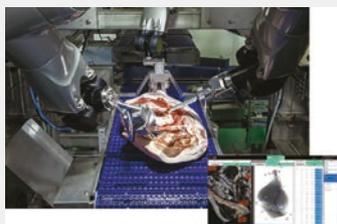
本学が保有する知的財産の活用を希望する企業様へ、その知的財産の技術移転や更なる共同研究により、企業様のビジネスへの活用をサポートいたします。

保有する知的財産情報の開示（イノベーションパートナーへは優先開示）  
関心のある知的財産のライセンスに向けたご相談  
知的財産を核とした更なる共同研究等のご相談



### 共同開発

（連携先：(株)石原産業）  
青色コチョウラン：企業様が単離に成功した青色の遺伝子を使い、本学研究室が4年かけて開花を実現。



### 共同研究 + 共同発明

（連携先：(株)前川製作所）  
ロボット制御技術を用いて自動で食肉を処理するシステムを本学研究室と企業様の共同で研究・特許取得。



### ライセンス

（連携先：(株)新越ワークス）  
複数品目同時加熱を行う携帯調理用具のデザインを本学研究室が開発。そのライセンスを企業様に許諾。



知的財産情報



知財ライセンスフロー

詳しい情報については、ホームページをご覧ください

# スタートアップ支援の一例

## スタートアップ創出支援

千葉大学は大学発スタートアップ企業を支援し、革新的な研究成果を社会に還元することを目指しています。

また、これらの取組を通じてイノベーションエコシステムの形成に取り組んでいます。大学内だけでなく、地域社会との連携や国際的な交流を通じてイノベーションを生み出す環境を整備し、社会に貢献します。

### 起業相談

本学教員・学生の起業相談を随時受け付けています。お悩みがある時は、いつでもご連絡ください。

### 学内ギャップファンドプログラム

千葉大学独自のギャップファンドプログラム。過去、最優秀賞には300万円/年、優秀賞には100万円/年の事業化のための研究資金（ギャップファンド資金）を提供し、研究成果の社会実装を支援して参りました。2023年以降はより本格的なスタートアップ支援のためのプログラムとして大幅なリニューアルを予定しています。（HPで随時更新）



千葉大学の  
スタートアップ支援

### スタートアップカフェ

スタートアップカフェでは、学生が本物のアントレプレナーと触れ合える機会を創出しています。

### 広がる 他機関連携

学生スタートアップコミュニティ（CSC）  
千葉市アクセラレーションプログラム（C-CAP）  
Greater Tokyo Innovation Ecosystem（GTIE）  
Research Studio B-Gear など、  
国内外のプラットフォームと連携してスタートアップ支援、  
アントレプレナーシップ教育を力強く推進しています。

## アントレプレナーシップ教育

研究者・学生のアントレプレナーシップの醸成を目的として、さまざまな教育プログラムやワークショップを提供しています。



学部生・大学院生対象の授業でアントレプレナーシップに関する講義を提供しています。

- スタートアップ概論 A / Startup - Overview A 前期 水曜 5 限 (16:10 ~ 17:40)
- スタートアップ概論 B / Startup - Overview B 後期 火曜 5 限 (16:10 ~ 17:40)
- スタートアップトレーニング I / Startup Training (I)  
- 前期 木曜 5 限 (16:10 ~ 17:40)
- スタートアップトレーニング II / Startup Training (II)  
- 後期 水曜 5 限 (16:10 ~ 17:40)



千葉大学の  
アントレプレナーシップ教育

IMO は、研究で得られた技術シーズを地域・産業界へ積極的につなげ、企業様等の研究・開発パートナーとして、我が国のイノベーション創出に貢献します。

## イノベーションパートナー制度

パートナー様との協働で、社会の課題解決に向けた新たなイノベーションを創造するために創設しました。パートナー会員様は、知財の事業化支援、コンシェルジュ支援、人材育成サポート等、IMO の URA による個別支援を受けることができます。

※URA：研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメント強化等に従事するユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーターの略

### ① IMO 主催イベントへのご招待

企業様向け・学内向けセミナーやイベントへご招待します。

### ② 技術シーズの情報提供

千葉大学の新着特許情報をお届けします。

### ③ 知的財産の事業化支援

千葉大学の知財を活用したパートナー企業様の事業化に向けて、その事前の仮説検証 (POC) や試作品製作等、権利活用相談等についても担当 URA が伴走支援します。

### ④ イノベーション創出コンシェルジュ支援

パートナー企業様の技術開発の課題について担当 URA が、課題の整理、課題解決に向けた千葉大学研究シーズのご提案、千葉大学との共同研究コーディネートや千葉大学技術の導入サポート、大型助成事業の獲得支援を行い、イノベーション創出活動を支援します。

### ⑤ イノベーション人材育成サポート

IMO が企画するアントレプレナーシップや知的財産経営に関するセミナーをご提供し、パートナー企業様のイノベーション人材の育成を支援します。また、インターンシップを希望している千葉大学大学院生等と、その受け入れに関心のあるパートナー企業様とのコーディネートを行います。

### ⑥ 年次総会の参加

年 1 回開催し、パートナー企業様同士の交流も可能です。

### ⑦ 会員名又はロゴの掲載

パートナー企業様の名称又はロゴを IMO の HP に掲載します。

正会員 ①～⑦全ての会員特典が受けられます。  
年会費 大企業：100 万円（年度額）  
中小企業：30 万円（年度額）

準会員 ① IMO 主催イベントのご案内  
② 技術シーズの情報提供特典



イノベーションパートナー制度の詳しい情報については、ホームページをご覧ください

## 金融機関様のコーディネーターとの連携

千葉大学は、金融機関様から研究促進コーディネーターを派遣していただいています。IMO の URA と連携して、千葉大学の研究成果や教員の知見（シーズ）と各金融機関様の取引先企業様等の要望（ニーズ）のマッチング及びこのマッチングを通じた共同研究を促進します。詳しくはコーディネーターにご相談ください。





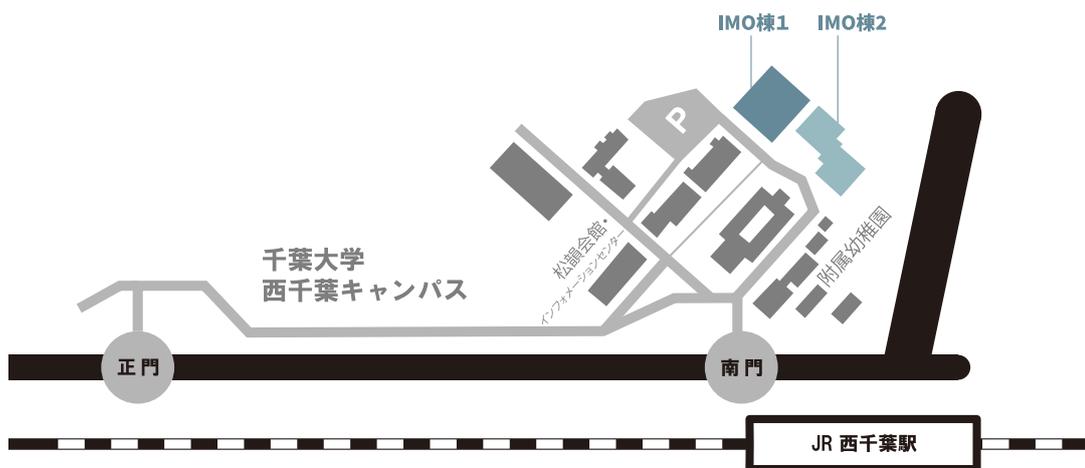
CHIBA  
UNIVERSITY



INNOVATION  
MANAGEMENT  
ORGANIZATION



## 学術研究・イノベーション推進機構



国立大学法人 千葉大学

学術研究・イノベーション推進機構

Academic Research & Innovation Management Organization (IMO)

### Location

〒263-8522

千葉市稲毛区弥生町 1-33

千葉大学 西千葉キャンパス内 IMO棟1・2

### Phone Number / Fax

TEL 043 290 2156 Fax 043 290 3519

### Website / Email

<https://imo.chiba-u.jp/> [bec2156@office.chiba-u.jp](mailto:bec2156@office.chiba-u.jp)

令和5年5月版



<https://imo.chiba-u.jp/>